



第3回地域・まちづくり委員会を開催しました！

10月4日（水）に第3回地域・まちづくり委員会をZoomを活用したオンラインで開催しました。

第3回の委員会では、『「防災とジェンダー」多様性を活かした災害対策や災害時の対応について』と題して学習会をおこない、地域・まちづくり委員以外に、学習テーマに興味のある各会員生協の役職員にも参加をよびかけ、13名が参加しました。

講師は減災と男女共同参画研修推進センター共同代表、早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員の浅野 幸子先生です。

阪神淡路大震災時のボランティアとしての実体験に基づく話は日ごろの備え、災害の種類による対応や避難など、個別の内容が整理されよくわかりました。災害時に組織の一員として地域社会に役立つためには自分自身が無事であること、家族、家庭の心配事がないことが前提であることなど、多くの気づきにもつながりました。



浅野先生

また避難所運営にジェンダーの視点が必要なのかについて、性別や立場の違いでの困難が起こることが、過去に起きた多くの災害時のデータをもとに具体的な説明があり、その対応には女性の経験値や配慮の細やかさや、話しやすさなどが大変重要であると説明されました。また、最近推奨されている在宅避難ですが、支援体制の構築として国分寺市の取り組みの紹介がありました。

様々な立場の人が災害時に助かる社会は、多様性を認め合う社会であることなど、とても気付きの多い内容でした。参加者からは「避難所のリーダーも、行政から派遣された職員も男性だが、その状態を改善するための意識改革はどうしたらいいのか？」「災害が起こる可能性は高いが、まず家庭の対策をしっかりと、地域の役に立ちたい」「自分自身の管理、家族のケアなどが抜けていた」「エンパワメントの視点を持った適切な支援という言葉が印象に残った」「組合員にも学習の機会を提供することが必要」「意思決定に多様な人が参加するためにも地域の組合員さんの力は大きい」などの意見がでました。先生のお話が大変面白く、あっという間の1時間でした。



参加者のみなさん

◆次回の委員会 12月13日 13:30～